

趣旨説明

汽水域研究会は、国内外の汽水域をフィールドとして研究している個人及び団体を幅広く結集し、学際的な研究領域である「汽水域研究」を発展させ、汽水域の環境保全・修復、持続的な利用などについて検討・提言を行い、社会貢献することを目的としています。今回、汽水域研究会が松江の地をはなれて、広島で開催されるにあたり、多くの研究成果が先行している瀬戸内海の研究に学び、今後の汽水域研究への発展の機会となればと考え、シンポジウムを開催することになりました。瀬戸内海研究の最前線で取り組んでおられる研究者の参加のもと、瀬戸内海・環境研究の最新情報を提供していただきながら議論を深めます。

このシンポジウムでは、瀬戸内海の多様な環境理解と環境修復のための調査研究として、「瀬戸内海の環境変化とその対策」とマリノフォーラムで実施されて以来15年ぶりに新たな挑戦が続けられている「密度流拡散装置」の2大トピックスを企画しました。

時：平成24年10月6日（土曜日）13：00—16：45

場所：広島大学学士会館レセプションホール

汽水域研究会2012年（第4回）大会 シンポジウム「瀬戸内海研究の一断面」

13：00—13：05 趣旨説明 野村律夫（島根大・教育学部）

13：05—13：45 基調講演 「瀬戸内海の環境再生に向けた総括的取組み」
上嶋英機（広島工大・工学系研究科）

I. 瀬戸内海の環境変化とその対策

13：45—14：05 硫化水素の抑制—今取り組むべき汽水域の最優先課題

山本民次（広島大・生物圏科学研究科）・

浅岡 聡（神戸大・内海域環境教育センター）

14：05—14：25 瀬戸内海沿岸感潮域における栄養塩供給—特に地下水の役割に着目して—

小野寺真一・金広哲（広島大・総合科学研究科）

14：25—14：45 瀬戸内海における過去数百年間の生物多様性と海洋環境の変遷

入月俊明（島根大・総合理工学研究科）

II. 環境修復へ向けた密度流拡散装置の現状と課題

14：55—15：15 密度流拡散装置の機能と効果

福田賢一（ナカシマプロペラ株式会社）

15：15—15：35 児島湾における潮汐過程の特徴

大久保賢治（岡山大・環境生命科学研究科）

15：35—15：55 水産資源管理と環境改善からみた装置への期待

高木秀蔵（岡山県農林水産総合センター）

15：55—16：15 密度流拡散装置の効果検証のための

メイオベントス（有孔虫群集）モニタリング調査

辻本 彰・野村律夫（島根大・教育学部）

16：15—16：45 総合討論 「汽水域研究会が果たすべき課題とは」

野村律夫（島根大・教育学部）

